

2

観測前の準備

現場を作成し、設計の座標データ・CADデータ・路線データを取り込みます。

2-1 現場を作成する

■ 現場を新規作成します

1 ホーム画面の [メニュー] をタップします。

2 [現場 新規作成] をタップします。

3 [現場名]
[作成者]
[工種]
[TS出来形管理]
を入力します。

4 [作成] をタップします。
現場が作成されます。



「TS 出来形管理」を「する」と設定した場合は

- ・ 「TS出来形管理計測」が可能となります。
- ・ 接続するTSの「等級」が設定可能になります。
（等級の設定ができない機種もあります）
- ・ TS出来形計測時の器械設置に制限がかかります。
（既知点設置、後方交会法で観測する測点や
TSと測点の距離など）
- ・ 設定できるのは、現場作成時のみです。
後から変更することはできません。

キャンセル 新規現場 作成

現場名
32文字以内

作成者
32文字以内

工種
 道路 河川

TS出来形管理
 する しない
*設定は後から変更できません。

■ XFD ファイルを取り込んで現場を新規作成します

XFD ファイルとは

- ・ 弊社アプリケーションから出力された連携用データで、現場情報（現場名など）・座標データ・CADデータ・路線データ・TINデータを含みます。
- ・ EX-TREND 武蔵の建設CADから [ファイル] - [FIELRD-TERRACE連携] - [XFDデータへ保存] で出力することができます。
- ・ 図面のラスタデータは表示できません。PDFは武蔵の [ファイル] - [その他外部ファイル] - [PDF取込アシスト] で変換できれば表示可能です。

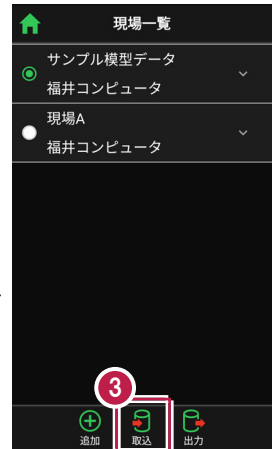
- 1 ホーム画面の [メニュー] をタップします。



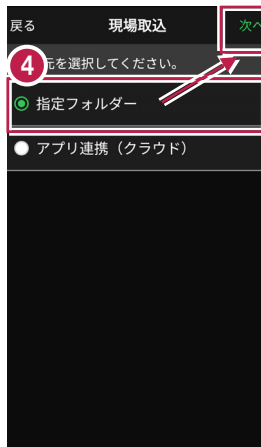
- 2 [現場 切り替え] をタップします。



- 3 [取込] をタップします。



- 4 取込元の選択で [指定フォルダー] を選択して [次へ] をタップします。



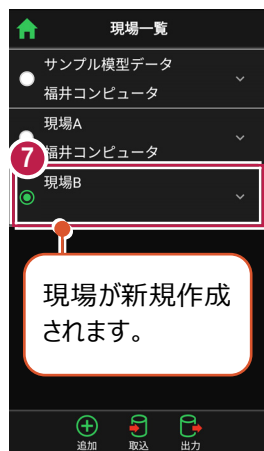
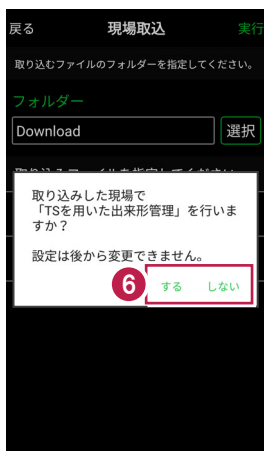
- 5 フォルダとファイルを指定して [実行] をタップします。



6 取り込んだ現場で
TS出来形計測を行う場合
は「する」を、
TS出来形計測を行わない
場合は「しない」を
選択します。

7 現場データが新規作成
されます。
XFDファイル内に
・座標データ
・CADデータ
・路線データ
・TINデータ
が含まれている場合は、
同時に取り込まれます。

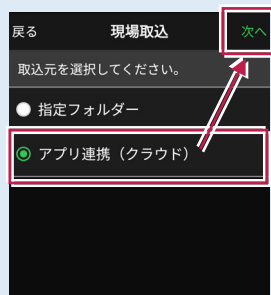
8 観測する現場を選択し、
[ホーム] アイコンをタップ
して戻ります。



ファイルの受け渡しにクラウドストレージを使用する場合は

取込元の選択で、「アプリ連携（クラウド）」を選択します。

[次へ] をタップ後に表示される画面で、使用するクラウド
ストレージの選択や、受け渡しするファイルの選択をおこなっ
てください。



■ FTZ ファイルを取り込んで現場を新規作成します

FTZ ファイルとは

FIELD-TERRACEで保存した、オリジナルの現場データです。

- 1 ホーム画面の [メニュー] をタップします。

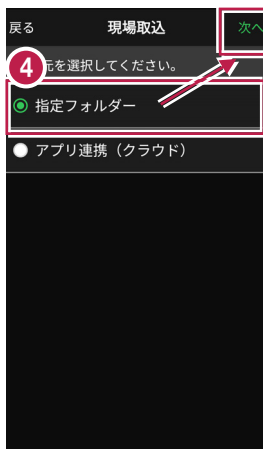
- 2 [現場 切り替え] をタップします。

- 3 [取込] をタップします。



- 4 取込元の選択で [指定フォルダー] を選択して [次へ] をタップします。

- 5 フォルダーとファイルを指定して [実行] をタップします。



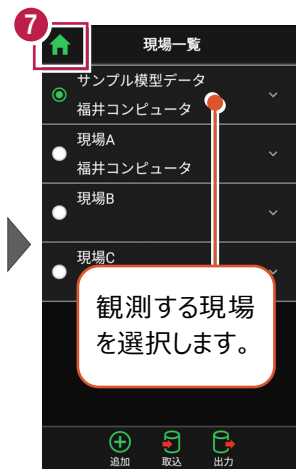
- 6 現場データが新規作成されます。

FTZファイル内に

- 座標データ
- CADデータ
- 路線データ
- TINデータ

が含まれている場合は、同時に取り込まれます。

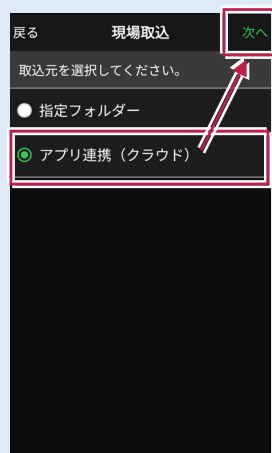
- 7 観測する現場を選択し、
[ホーム] アイコンをタップして戻ります。



ファイルの受け渡しにクラウドストレージを使用する場合は

取込元の選択で、「アプリ連携（クラウド）」を選択します。

[次へ] をタップ後に表示される画面で、使用するクラウドストレージの選択や、受け渡しするファイルの選択をおこなってください。



■ 表示桁を設定します

1 ホーム画面の [メニュー] をタップします。

2 [現場 共通設定] をタップします。



3 [桁 設定] をタップします。

4 各項目の桁数を設定します。

5 [戻る] をタップして桁数を保存します。



6 [ホーム] アイコンをタップしてホーム画面に戻ります。



■ 縮尺係数補正・投影補正を設定します

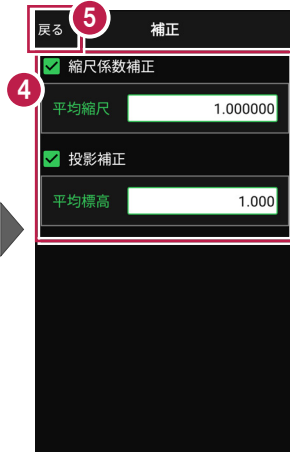
- 1 ホーム画面の [メニュー] をタップします。



- 3 [補正 設定] をタップします。



- 4 [縮尺係数補正] と [投影補正] のチェックをオンにして、補正値を入力します。
チェックがオフの場合は、補正は起こりません。



- 5 [戻る] をタップして補正値を保存します。

- 6 [ホーム] アイコンをタップしてホーム画面に戻ります。

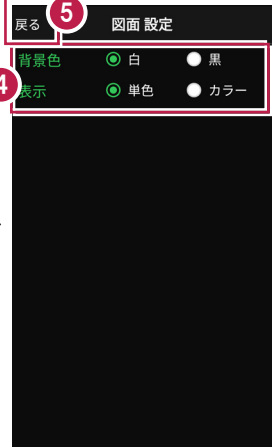


■ 図面の表示設定をおこないます

- 1 ホーム画面の [メニュー] をタップします。



- 3 [図面 設定] をタップします。



- 4 図面の [背景色] と [表示] の色を設定します。

- 5 [戻る] をタップして 図面設定を保存します。

- 6 [ホーム] アイコンをタップしてホーム画面に戻ります。

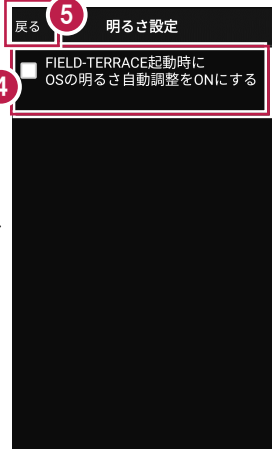


■ 画面の明るさの自動調整を設定します

1 ホーム画面の [メニュー] をタップします。



3 [明るさ 設定] をタップします。



4 画面の明るさの自動調整について設定します。

5 [戻る] をタップして明るさ設定を保存します。

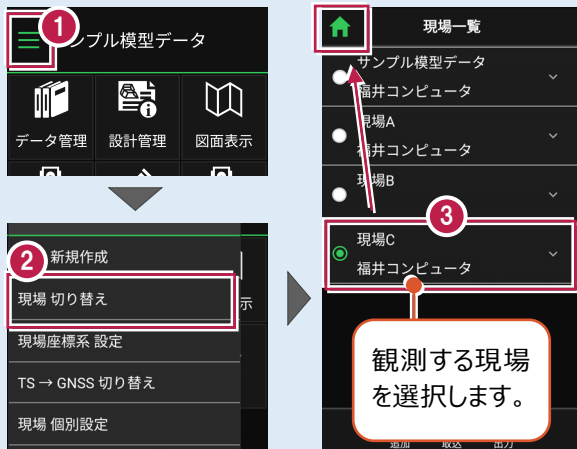
6 [ホーム] アイコンをタップしてホーム画面に戻ります。



現場データを切り替える場合は

ホーム画面の [メニュー] から「現場一覧」を開いて、観測する現場に切り替えます。

- 1 ホーム画面の [メニュー] をタップします。
- 2 [現場 切り替え] をタップします。
- 3 観測する現場を選択し、[ホーム] アイコンをタップして戻ります。
現場が切り替わります。



現場設定（「現場名」や「工種」等）の確認・編集方法

現場データの「現場名」や「工種」等は、「現場一覧」で確認・変更が可能です。

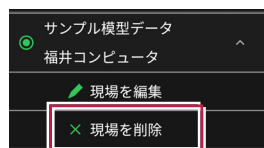
「現場一覧」を開く手順は、上記「他の現場データに切り替える場合は」を参照してください。

- 1 「現場一覧」で、編集する現場の右側の [v] をタップして、[現場を編集] をタップします。
- 2 「現場名」や「工種」等を確認・編集して、[保存] をタップします。



※「TS出来形」の設定は変更できません。

※ [現場を削除] で不要な現場を削除することもできます。



各観測で事前に取り込みが必要なデータ（その1）

各観測では、事前に下記データのいずれかを取り込んでおく必要があります。

おこなう観測		取り込みが必要なデータ
測設	座標	<ul style="list-style-type: none"> 座標、図面を含むXFD 座標SIMA
	路線	<ul style="list-style-type: none"> 武蔵の「線形計算」を入力したXFD 武蔵の「3次元設計データ作成」で「線形」「縦断」を入力したXFD 武蔵の「3次元設計データ作成」で「線形」「縦断」「横断」を入力したXFD
	路線 (測点)	<ul style="list-style-type: none"> TS出来形用のXML TREND-ONEの「路線測量」で作成した路線データのXRF
	横断変化点	<ul style="list-style-type: none"> 武蔵の「3次元設計データ作成」で「線形」「縦断」「横断」を入力したXFD TS出来形用のXML
観測	放射	<ul style="list-style-type: none"> 図面を含むXFD
	路線	<ul style="list-style-type: none"> 武蔵の「線形計算」を入力したXFD 武蔵の「3次元設計データ作成」で「線形」「縦断」を入力したXFD 武蔵の「3次元設計データ作成」で「線形」「縦断」「横断」を入力したXFD
	横断放射	<ul style="list-style-type: none"> TS出来形用のXML TREND-ONEの「路線測量」で作成した路線データのXRF

各観測で事前に取り込みが必要なデータ（その2）

各観測では、事前に下記データのいずれかを取り込んでおく必要があります。

おこなう観測		取り込みが必要なデータ
3D施工	点検・検査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵の「3次元設計データ作成」で「線形」「縦断」「横断」を入力したXFD ・ TS出来形用のXML
	丁張	
	点検・検査 (TIN)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵の「3Dコマンド」で「TIN」を入力したXFD ・ TINを含んだLandXML ・ TREND-COREの専用オブジェクトを「土工モデル出力」で出力したLandXML ※汎用オブジェクトは「専用オブジェクト」に変換する必要があります。（凸凹地盤などに変換）
	構造物	
TS出来形	計測・検査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵の「3次元設計データ作成」で「線形」「縦断」「横断」を入力したXFD ※基準点/水準点必須 ・ TS出来形用のXML ※基準点/水準点必須

取り込む図面の縮尺は「1つ」にすることをお勧めします

図面に複数の縮尺があると

- ・ 各縮尺上の要素の位置がずれて正しく表示されない
 - ・ 「読み込んだ座標」や「計測した座標」が「図面」とずれる
- などの症状が起きる場合があります。あらかじめEX-TREND武蔵で

- ・ 「属性移動」コマンドで縮尺を移動する
- ・ 不要な縮尺を削除または非表示にする

などをおこない、縮尺を「1つ」にしてからXFD出力した図面を取り込むことをお勧めします。

取り込む図面のデータ量は「1万個以下」にしてください

図面のデータ量（線分や文字などの要素数）が多すぎると、図面の表示等が遅くなります。実用上の目安として、データ量の合計が1万個以下になるよう、できるだけ不要な要素は削除してください。

測定時に使用できる路線は1つです

複数の路線データを取り込むことはできますが、測定時には、取り込んだ路線データから1つの路線を選択して測定します。

測定中に路線を切り替えることは可能ですが、路線の「開始点」「終了点」「オフセット」などの条件は保持されません。